

まちの話題

全国人権作文コンテストで(県)最優秀賞

三国中3年の大村晏子さんが「全国中学生人権作文コンテスト」の福岡県大会で最優秀賞、中央大会で法務省人権擁護局長賞に選ばれ、3月2日に表彰状の贈呈式を行いました。

大村さんは「想像の力」と題し、車いすで生活する後輩との交流で感じたことを作文にしました。

山本校長は「大村さんは考えるだけでなく、行動力のある素晴らしい生徒です。賞に選ばれて誇りに思います」と話し、大村さんは「障がいがある人が暮らしやすくなるよう、手助けができるような人になりたいです」と語りました。



マッスルスーツ®で フレイル予防&ヘルスケア

市は、介護や建設現場で腰への負担を軽くする製品「マッスルスーツ®」を活用した健康・長寿のための共同研究の契約を、東京理科大学、鳥栖市の九州医療専門学校との3者で結んでいます。1月～3月に市職員と商工会青年部がマッスルスーツ®を装着して、20日間のエクササイズを行いました。

運動機能測定・体組成測定装置などで分析した結果、姿勢改善、疲労感の軽減、睡眠などに一定の成果がある事が分かりました。

この調査結果も含め、一日中座って仕事をすることで腰痛に苦しむ人や正座ができない人など、さまざまな課題に役に立つ研究結果が出ています。詳しくはホームページをご覧ください。



福岡県の野球発展に貢献

小郡市野球連盟顧問で福岡県野球連盟副理事長の片山芳幸さんが、長年にわたって福岡県の軟式野球の普及・発展に尽力したとして、全日本軟式野球連盟功労賞を受賞し、市長に報告しました。

片山さんは、昭和57年、全日本軟式野球福岡県連盟評議員に着任。以降、県や全国大会などの企画で野球を通した子どもたちの健全な育成に貢献。また平成7年の小郡市野球場こけら落としの際には、福岡ダイエーホークス(現ソフトバンク)のオープン戦招致に尽力しました。

片山さんは「市の野球発展の力になれば」と思い活動してきた。多くの人に支えられ、皆さんに心から感謝したい」と話しました。



平田家住宅の運営法人を表彰

3月3日、平田家住宅の修復・維持に取り組む認定NPO法人「文化財保存工学研究室」の活動が評価され、福岡県美しいまちづくり協議会から最優秀賞の表彰を受けました。

同研究室は平成28年の開設から、平田家住宅の老朽化による外観・室内の修復、庭木の剪定などをボランティアと一緒に進めてきました。そして、同年8月に建物8棟が小郡市指定文化財となり、平成30年7月に庭園が国登録記念物に指定されました。

田中理事長は「今の平田家住宅があるのは、多くの団体やボランティアの協力があったからです」と感謝の気持ちを述べました。





4年ぶりに福岡小郡ハーフマラソン開催

3月12日、4年ぶりに「福岡小郡ハーフマラソン」を開催し、ハーフの部、10kmの部、1.5kmの部(小学生・ファミリー)で計3,343人が参加しました。ゲストランナーとして東京パラ五輪金メダリストの道下美里さん、バルセロナ五輪日本代表小嶋由水さん、タレント・モデルの岡澤アキラさんを迎えた大会。参加者は、思い思いに完走をめざし走りました。

大会後にはゲストランナー3人によるトークショーを開催。参加者からの「苦しいときは、何を考えて走りますか」との質問に、道下さんと小嶋さんは「そのコースの空気や景色を感じながら走っています」と回答。岡澤さんは“人生においての苦しいときに考えること”について「やはり……うどん、ですね(笑)」と答え、某テレビ番組で人気を博している岡澤さんらしい回答に、会場も笑いに包まれました。



子どもたちが考えた人権標語の看板を設置

小郡小学校前に人権啓発看板を設置し、3月15日に披露式を開催しました。式では6年生が、標語に込めた思いやこれまで学んできた人権学習の発表などを行いました。

標語には「ちがいで差別するのではなく、その人のことを知って、認めあって、よい社会を作っていこう」という思いが込められています。式に参加した、小郡校区「人権のまちづくり」推進連絡会の井手哲会長(小板井2区長)は、子どもたちに「まずは自分を大切にしましょう。そしてそれ以上に周りにいる人を大切にしましょう」とメッセージを送りました。



看板は全部で3面あり、うち1面を6年生みんなで作りました。

認めあいがいをこえるよき社会
二〇二二年度 小郡小学校 六年